

小学校第4学年
社会科

④奈良県の特徴ある地いきの人々の暮らし
「シカとともに生きる奈良の町」

学習のねらい

- 奈良のシカを保護・活用している人々の働きと工夫や苦労、願いについて知り、それらについて資料を活用して調べ、分かりやすくまとめることができる。
- 奈良のシカを保護・活用する人々の思いを考えるとともに、シカと人との関わりについて考え、それを適切に表現することができる。
- 奈良のシカを保護・活用する人々について関心をもって調べ、シカと共存する奈良の町に誇りと愛情をもつことができる。

郷土の資源について

「奈良と言えば東大寺の大仏とシカ」と言われるほど、奈良のシカは観光資源として大きなウエイトを占める。奈良のシカは、768年に春日大社ができたとき、もともとその周辺に生息していた野生のシカが神の使いとして保護され、大切にされるようになった。奈良市の公園では、シカと観光客が和やかに交流する、他の地域にはない風景が見られる。その一方で、野生のシカが市街地に隣接する公園にいて、周辺の田畑を荒らしたり、交通事故で死んだりするなどトラブルが問題となっている。県内の児童は、実際にシカを見たり、触ったりするなど、何らかの形でシカと関わった経験をもつ者が多い。県内の特色ある地域として、奈良のシカが生息する奈良市を取り上げることで、児童の学習意欲を高めたり、郷土への愛着を深めたりすることが期待できる。



学習指導要領上の位置付け

第4学年 県内の特色ある地域の様子

学習の流れ

1. 奈良のシカを知り、奈良のシカについて考える。

2 時間

2. 奈良のシカのメリット・デメリットを考え、表にまとめる。さらに、奈良の鹿愛護会の人々の仕事を調べ、発表する。

4 時間

3. 奈良のシカとともにくらししていく方法を考え、奈良のシカと人々との関わりについて話し合う。(2/2 本時)

2 時間

4. 奈良のシカとともにくらししていくために、自分たちにできることを考える。

1 時間

展開例（本時 8 / 9）

| | 学習活動 | 指導上の留意点（※評価規準） | 備考 |
|-----|---|--|---|
| 導入 | ○前時までの学習を振り返り、本時の学習活動を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> • これまでに学習して分かったことを振り返らせる。 • 本時は、人とシカがうまくつき合いながらくらすためにはどうすればよいかについて話し合うことを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> • ワークシート |
| | 人とシカがともにくらすしていくためにはどうすればよいか話し合おう | | |
| 展開 | ○自分の考えを発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> • 発表者は、自分の考えに理由もつけて発表することを伝える。 • 聞くときは、自分の考えと比べながら発表を聞くことを伝える。 | |
| | ○賛成意見や反対意見などを発表し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> • それぞれの意見に対する自分の考えを発表させる。 • 人の発表を聞いて、自分の考えを変えてもよいことを伝える。 • なるほどと思った意見は、ワークシートに記入させる。 <p>※シカと人の関わりについて自分の考えを深めている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> • ワークシート |
| | ○もう一度自分の考えを書く。 | <ul style="list-style-type: none"> • もう一度自分の考えをまとめさせ、理由もつけてワークシートに記入させる。 | <ul style="list-style-type: none"> • ワークシート |
| まとめ | ○今日の学習を振り返る。 | <ul style="list-style-type: none"> • 振り返りカードに今日の学習で分かったことや思ったことなどを記入させる。 | <ul style="list-style-type: none"> • 振り返りカード |
| | <p>振り返り例</p> <ul style="list-style-type: none"> • 奈良の鹿愛護会の活動が大切だと思った。パトロールをしたり、鹿寄せなどの行事をしたりして、人やシカのためになることをすると、人もシカも幸せに暮らしていくことができると思ったからだ。愛護会の活動のために、自分たちにできることを考えたい。 | | |

発展的な学習の例

この学習を発展させて、総合的な学習の時間に、「身近な自然環境とそこに起きている環境問題」を探究課題に設定し、身の回りの自然環境と人々のくらしとの関わりについて探究的な学習を展開することも考えられる。